

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も自然もみんなともだち！』No.8

代表責任者

古高 利男

☎270-1132

我孫子市湖北台2-14-7

☎090-7275-9890

2017, 10, 7~8

第8回活動「雲取山登山」標高2017m

日本百名山の一つ。東京都で一番高い山。そして、高さが今年
の西暦2017年と同じ山としても注目されました。さて、どんな山旅
だったのでしょか。

- 1, 日 時： 2017年10月7~8日 1泊2日
- 2, 天 気： 2日間とも、曇り空。ときどき日が差しました。
気温・・・14℃
2日目の雲取山頂は、11, 5℃でした。
- 3, 交 通： ○新宿駅646発、快速ホリデーおくたま1号
4. 宿 泊： ○雲取山荘 0494-23-3338
大人7800円、子ども7300円、昼食弁当1000円
部屋は8人用が並んでいる、コタツあり
トイレは外で水洗・男女別、洗面も外
山荘北側斜面にテント場あり（尾根上で狭い）
- 5, 参加者：総数 8人
内訳 3家族
大人 3
高校生 1
小学生 3
スタッフ 1

6, 活動の様子

1日目：10月7日（土） 曇り

○新宿駅646集合

全員早めに集合。快速ホリデーおくたま1号はすいていました。ホームには、リュックを背負った人はパラパラでしたから。

立川からはたくさんの登山者が乗り込んできました。

○奥多摩駅821着

色とりどりの登山者達。トイレへ行く人、バス停へ行く人。タクシーと交渉する人も。私たちは、予約してあるワゴンタイプのタクシーに乗り込む。奥多摩湖を左に見ながら、くねくね道を鴨沢に向かう。バス停すぎを右急カーブして林道に向かう。狭い！

○ 小袖の登山口に905到着。

雲取山の丸い看板の前で記念写真。いよいよ登山開始だ。ドングリが転がっている。心配された雨は、なんとか上がってくれたようだ。杉林の中の登山道を歩く。傾斜が緩いためか、歩くスピードが速い！子どもたちは明るい声で話しながら、どんどん進んで行く。放置された出づくり小屋・畑・石垣を見ながら進む。道端の植物は単純で、フタリシズカの葉に気づくだけだ。杉林に被われ、林床まで光がはいらないからだろうか。

○ 最初の水場に1030着

杉林を10歩ほど登った所に、塩ビ管からチョロチョロと出ている。春日さんからいただいたチョコレートを分け合い、気合いを入れて、また歩き出す。左右とも杉林で、結構な急傾斜である。暗い杉林はどこまで続いているのだろうか・・・。

元気な子どもたちは、しりとりを始めた。「いちご」「ごりら」「ラーメン、はおいしい」、聞いている大人たちにも、頬が緩み元気が出てくるようだった。所々に「平将門迷走ルート」の表示がある。堂所やマムシ岩に気づかないうちに、登りがきつくなる。

○ セツ石小屋1230着

斜面にへばりついたような小屋である。トイレは、なぜか小屋より上にある。まあまあきれいなほうだ。男の小使用には、バケツの水をコップで汲んで流すようになっていた。料金箱は外にあり。

ここで昼食タイム。展望はない。暑くはなく、疲れも少ない。

30分の休憩後、セツ石山を目指す。あまり歩いてないような傾斜のきつい道だった。朽ちた神社跡を過ぎると、花崗岩の大きな石が七つ立っている。だから、ここがセツ石の山頂か、納得！1757, 3分。

○ ブナ坂1355着

広い尾根に出る。明るい！歩きやすい！ブナ坂だから、ブナの木があるのだろう。1本だけ気づいたが・・・。ようやく黄色くなってきたカラマツ林とマルバタケブキの葉が目立ってきた。

広い平地はヘリポートだった。その回りでは、色々な形のテントが張られている。テントのそばでゆっくり休んでいる人を見ると、「テント泊、いいなー！」「いつかは、自分も」という思いがわき上がってくる。

私のテント泊は、40代の頃の巻機山が最後だったろうか？それ以後は、ホテルや山小屋を利用することがほとんどとなってしまった。山仲間と登るのではなく、女房や職場の仲間そして子どもたちと登ることが多くなったからだ。一番の要因は、私自身の高齢と体力である。背伸びはしないでおこう。

○ 奥多摩小屋1445着

テント場のすぐ先に、奥多摩小屋がある。素泊まりのみで4000円。トイレは、小屋の向かい側。ここのトイレは、表のカギがかかっていると、空いている。カギが開いているときは、使用中という意味だった。水は、尾根から5分ほど下ったところにある。

1813分のヨモギの頭を苦労して登った。すると、右から親子連れが、楽

そんな顔をして登ってきた。エスケープルートがあったのだ。(帰り道に利用)

子どもたちが、元気な声をあげながらすすんでいく。「そろそろ、休んでもいい時間じゃない？」と一人思っても、トップを歩く栗原さんは、高齢者を労るそぶりを少しもしめさない。小雲取山はどこだったのか気づかず、見上げると、雲取山山頂避難小屋が視野に入ってきた。その裏側が、山頂だった。雲取山山頂避難小屋は、無人であるが、きれいに整理されていた。小屋の下にトイレがある。

○ 雲取山山頂1600着

2017, 1行。着きました！東京都で一番高い山！7時間かかりました。頂上からは雲海が広がっています。やっと、遠くの山々が見えます。でも、富士山は見えません。

太陽が少し顔を出し、背後に、小さいけれど丸い虹を見せてくれました。その中に、雅人くんの影を映してくれました。写真を撮ったりおやつを食べたり。静かな頂上に、柔らかい会話が聞こえてきます。どの登山者からも、全身から安堵の気持ちが表出しています。他のパーティーとも、自然に話がつながります。いい雰囲気のピーススポットになっているようでした。

40分も山頂を堪能しました。いよいよ雲取山荘へ向かいます。気持ちは軽いのに、悪路で苦戦。早々に「明日の御来光には、来ない」ことになってしまいました。途中、鎌仙人レリーフに迷い込み、田部重治レリーフを見ると、すぐそこが山荘でした。

○ 雲取山荘1730着

ここは1937行。今日は140人ほどの宿泊客がいるようです。受付を済ませ、2-1という部屋を案内されました。なんでも、ここは御来光の見える一番いい部屋で、皇太子ご夫妻も泊まった部屋だということです。

子どもたちは、「あたか〜い」といってコタツに潜り込みました。大人は雨具を乾かしたり、荷物の整理をしたり。そして、ビールで乾杯！

夕食は6時からで、私たちは2回目の6時30分からでした。テーブルにつくと、配膳を見て、ちょっとビックリ。ほとんどが紙の食器です。食べながら、いろいろ推理しました。「再利用するんだ」「洗わず、捨てる」「水が少ないから」ご飯のおかわりはありましたが、ふっくらとはしていませんでした。「尾瀬の食事は良かった」「旅館みたいだった」「風呂もあった」と、比較してしまいました。

9時消灯なので、それまでに歯磨き・トイレを済まし、懐中電灯の用意もしました。8時には、コタツを廊下に出し、布団を敷き詰めました。潜り込むと、もう動きたくありません。そのまま、みんな寝てしまいました。

2日目：10月8日（日）曇り

○ 3時、早朝のトイレ

トイレのため、懐中電灯を持って、そっと外に出ました。見上げると、冬の星座であるオリオン座が輝いていました。御来光、そして富士山は期待できそうでした。そんなに寒くはありませんでした。

- 4時30分、起床
たっぷりの8時間。みんな目覚めがいい!
- 4時55分、部屋から御来光
雲の隙間から、明るくなる場所を確認。すっきりした「晴れ」にはなってくれない。オリオン座が見えていたのに、と、ちょっと不満。
- 5時、朝食
8人の席が空いていた。「いただきます」夕食とちがって、食器は紙ではなかった。何か、事情があったのだろう。私は、卵かけごはんでおかわりをした。小梅干を3個食べた。卵かけご飯と梅干は相性がいいと思っているが、みなさんは・・・。
- 6時15分、出発
リュックを担いで、山荘のおじさんに「いってきます」と、元気いっぱいだ。雲取山山頂を、再び目指す。が、北斜面のためか水たまりがあり、木の根で守られた階段状の道は、やはり登りにくい。御来光を見て下山する人に会うと、「よく登ったなあ」と感心する。そんなことを考えているうちに、頂上に着いた。
- 再び、雲取山山頂645着
すでにたくさんの登山者が、にぎやかに話したり展望を楽しんでいました。富士山も、バッチリみえました。ギザギザのピークである剣が峰も、肉眼で確認できました。思えば3年前、2014年8月24日、8家族24名が富士宮口頂上に立ったのでした。
記念の集合写真を撮り、いよいよ下山開始です。どんどん下るだけですので、12:18発のバスには十分に間に合うと思ったのですが・・・。
- 奥多摩避難小屋755着
右手に富士山を見ながら、広い尾根を快適に下ります。小雲取山の取り付きのところで、4人の外人さんに「あと何分？」と聞かれました。30分ですって来たので、「あと1時間ですね」と応えました。
ヨモギノ頭を避け、等高線を下ると、小屋はすぐでした。ナナカマドの木が1本だけ目に止まりました。赤い葉と艶のある赤い実をつけていました。テントはどんどんかたづけられていました。
- ブナ坂840着
ここからは、いっきに下りになります。七ツ石山を避け、まき道を進んでみました。等高線沿いに歩くので距離は長くなりますが、少しだけ楽なことと谷を横切るときの様子を見ることが出来ます。水場が見え、もうすぐで七ツ石小屋です。
- 七ツ石小屋925着
「ここでお弁当を食べます」「エッ、朝食べて、そんなに経っていないよ」と美友香さん。「山の弁当は、山の中で食べるとおいしいんだ」という理由はさておき、休めるということで弁当を開きました。みんな、けっこうパクついていましたね。水があって、トイレがあるのは、ありがたいですね。ただ、弁当を食べている上がトイレなのは・・・。25分の休憩後、元気よく出発しました。

○ 堂所1045着

子どもたちは快適に下ります。私は、杖をつきながら、ヨタヨタとです。ヨタヨタ歩きながらも、前を歩く齋藤さんと、子どもの教育のことや山のことなどを話していました。こんな雰囲気も、いいものでした。

時間的に、登ってくる登山者がたくさんいました。家族で、グループで、高齢者が一人で登ってくることもありました。その都度、道を譲り合うのですが、そのタイミングは難しいようです。「登り優先」をマニュアル通りに行おうとしても、場所と登ってくる人が「休みたい」と考えているかで臨機応変に対応しなければならないようでした。

杉林の中の土の道になり、左下にはアスファルトの林道が見えてきました。

○ 小袖登山口1200着

やっと尽きました。長かったですね。みんな、よく歩きました！お疲れ様でした！

休んでいると、足が動きにくくなってきました。鴨沢のバス停まで20分ということでしたが、足の動きがぎこちなく、全員ゆっくりゆっくりです。40分かかって、やっとバス停に着きました。バスの発車は1346分です。お弁当を食べる人、おやつを食べる人、春日さんからの差し入れを分ける人、生ビールをうまそうに飲む人、写真を撮る人、ネコを嫌がる人……。

○ 奥多摩駅1430着

○ もえぎの湯1500入浴開始

観光案内所で割引券をもらい、もえぎの湯に向かいました。車が並んでいます。なんと、整理券を発行しているのです。「男性は30分待ちです」と案内がありました。「カメラがない？」「帽子がない？」と、慌ててバス会社と連絡をとる時間につかわれました。

入浴料 大人780円 小人410円 (それぞれ100円引きになる)

脱衣場のロッカーが空くと入れてくれる。湯は、肌がつるつるになるようで、いい感じ！露天風呂もありました。休憩室で、全員集合。ここで「ふりかえりの感想」を書いてもらいました。私の一番好きな時間です。駅前にあった登山者カードの裏側を利用しました。配ると、すぐに鉛筆を走らせてくれます。お母さん方も、しっかり書いてくれました。今回の一番の宝物になりました。

○ 奥多摩駅1654発

おくたまあきかわ6号に、全員すわることができました。疲れが出て、すぐに居眠りです。

途中、目の不自由な奥様を連れた高齢の方が乗ってきました。シルバーシートはふさがっています。それに気が付いた私たちは、声をかけ席を譲りました。奥様は、はっきりした声で「ありがとうございます」とお礼を言ってくれました。

○ 立川駅で、齋藤さんたちが降りました。お父様が、迎えにくるということです。神田駅で栗原さんと別れ、上野駅で上田さんたちと別れ、私は一人常磐線で我孫子に向かいました。目をつぶりながら2日間の雲取山を思い出していると、たくさんの家族と登る楽しさだけが浮かんできました。

7, 親と子の、いきいき感想

○ じゃそれは ル・フェイに わってくれ

一日目のとき、きりでけしきがみえなくて、たっせいかんがありませんでした。(雲取山についたとき) 100倍まるいにじを見て、その中に、じ分のかげが見えました。

さんそうで、めがねをかけたおじさんが、さんそうの一番えらい人は20さいちがい、かみさまとよんでいる、といろいろいって、おもしろかったです。二日目、(部屋の中から) 日の出を見て、さんちょうにいきました。ふじさんが見えました。下るとき、やっとおりました。長かったです。バスでいまでがきつかったです。

バスの中でぼうしをわすれました。3かいめです。

栗原北小3年

○ 山登り けしきがきれい すごかった!

1日目、けしきゼロ。のぼり、つらい。おりるとき らく。つかれた。

きゅうけいないと、つらい。山道、(水で) べちよべちよ。

頂上もくもだったけど、登った。達成感がありました。

まるいにじが見えた。そらの上、うんかい。

さんそう、ごはん、おいしい。やさしいおっちゃんがありました。

2日目、日の出見えた。きれい。朝、早い。ねむい。ごはん、うまい。けしき、あり、きれい。おり、らく。きゅうけい、なくてもへいき。

ふじさん、見えた。

鹿浜五色桜小6年

* 雲海に 丸い虹見て うれしいな

雅人が言い出した「2017年雲取山にのぼる!」を、古高先生が実現してくれました。

天候が心配でしたが、雨が止んでよかったです。

頂上では、雲海と丸い虹が見られてうれしかったです。

頂上~山荘までの道はキツくて、御来光をあきらめました。

○つかれた。

高校2年

○二日目の 頂上から見る 富士きれい

一日目は、雲がかかっている、富士山が見えなくて、悔しかった。

でも、二日目は、富士山がはっきり見えたから、見れて良かった。

登る時はつかれたし、雨も少し降っていたけれど、二日目は、のぼりよりも楽だったし、雨も降らなかったから良かった。

鹿浜五色桜小六年

* 雲取山登山、無事終了!大雨にも降られず、ホットしました。

のらえもんで、いろいろな山に挑戦してきました。一回一回大きな感動があります。

子どもたちが何度もくり返した「しりとり遊び」が印象的でした。
本当にありがとうございます。
次回は、アルプス・谷川岳・・・。